NPO地球の緑を守る会/〒158-0097世田谷区用賀4-34-12グリーンハウスNo.2—231号/Tel:03-5717-9358Fax:03-5717-9359/ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞhttp://midori.mond.jp/

フォレストニュース

植林が地球を救う
平成23年（2011）9月10日
No. 45
発行　高津啓洋

命を守る木・植樹イベント長野で開催

長野県飯綱高原で「いのちを守る木」植樹イベントに参加しました。

国内外1800か所に4000万本の木を植えた実績をもち、現在も世界のどこかで毎日のように木を植え続ける宮脇昭博士（83歳）が、8月14日長野市内の市民ホールで行われた「長野オリンピックの森検証シンポジューム」で、国民・市民のいのちを守る森づくりの大切さを熱く語りました。

翌15日は、長野オリンピック開催時、宮脇博士の指導で植えられた45万本の小さな苗が、樹高10メートル以上の森に成長している現場を宮脇博士のガイドで見学、その後植樹イベントに参加した市民約130名で1000本の植樹を行いました。

今年が国連が定めた国際森林年であることにちなみ、「地球の緑を守る会長野」と「国際ふるさとの森づくり協会」の二つのNPOがコラボレーションして企画、七つの主催者団体が名を連ねた実行委員会方式で実施されました。

環境や防災のことを部屋の中だけで学ぶのではなく、自分と自分の家族、自分の愛する人々の“いのちを守る木”を、大地に手を触れ、額に汗して一本一本自分で植えていくプロセスまでを家族皆で体験してもらうというのがこのイベントの特徴と言えます。

宮脇博士（前列左から4人目）と高津理事長を囲んで記念撮影

植物生態学の世界的権威で“植樹の神様”とまでいわれる人物の直接の指導を受けることができるというので、県外からも多くの参加者がありました。植樹祭終了後、宮脇博士と記念写真におさまる家族連れや、直筆サインをお願いする光景も見られました。

《豆知識》

◎宮脇方式による森づくり

従来の森づくりが主に木材資源のためや生活域の美観のためのものであったのに対し、多様な生命集団のいのちを守る防災と環境保全の目的でつくられる。

「潜在自然植生」（外来種や土地に合わないものでなく、その土地本来の樹種）の幼苗を混植・密植することで、15～20年で（自然状態の回復だと200～250年）限りなく自然林に近い“ほんものの森”（次の氷河期がくる9000年間持続）を再生できるため、地球温暖化時代の〈いつでもどこでも誰でもできる〉ハイテクノロジーとして世界の注目を集めている。

8月24日元気に成田を出発

パラグアイにボランティア出発

8月24日から9月9日まで、12名の学生青年たちが、パラグアイに向け成田を元気に出発しました。多くの方からの植林のための支援に心から感謝申し上げます。

今回、植林をするプレジデント・フランコ市は、日系人が多くいるイグアス移住地の近くです。市長をはじめ教育長、学校の先生方と学生もともに、5000本の苗木を植樹します。

元々パラグアイ国の南部地域は、肥沃な土地で、ジャングル地帯とも言われていましたが、長期的に伐採がおこなわれた結果、森林地域が極端に少なくなってしまいました。前回、前々回の植林後もケアー体制がとれるように、人材を配置して、種から苗木作り、植林後の世話をしてきました。今後も南部地域にも継続して植林を拡大していきます。

[お知らせ]9月23日川崎で、高津理事長の、パンタナールの保全と将来、そして植樹活動についての講座があります。24日は、森の実地検証があります。